

第1回介護福祉士国家試験パート 合格の導入に関する検討会	参考資料 1 - 1
令和6年5月17日	

介護福祉士国家試験に関する参考資料

厚生労働省 社会・援護局

介護福祉士の資格の概要

1 介護福祉士の定義

介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護（喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であつて、医師の指示の下に行われるもの（厚生労働省令で定めるものに限る。）を含む。）を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者
「社会福祉士及び介護福祉士法」（昭和62年法律第30号）第2条第2項

2 資格取得方法

4つのルート of のいずれかにより資格を取得し、登録することが必要

- ① 介護福祉士養成施設等において必要な知識及び技能を修得を経た後に、国家試験に合格する「養成施設ルート」
- ② 3年以上の介護等の業務に関する実務経験及び実務者研修等における必要な知識及び技能の修得を経た後に、国家試験に合格する「実務経験ルート」
- ③ 文部科学大臣及び厚生労働大臣が指定する福祉系高校において必要な知識及び技能を修得した後に、国家試験に合格する「福祉系高校ルート」
- ④ EPA（経済連携協定）（インドネシア・フィリピン・ベトナム）による介護福祉士候補者が3年以上の介護等の業務に関する実務経験を経た後に、国家試験に合格する「EPAルート」

3 国家試験の概要

- 実施時期 ・年1回試験（第1次試験（筆記試験）、第2次試験（実技試験））※一定の要件を満たすと実技試験は免除される。
・筆記試験は例年1月下旬、実技試験は例年3月上旬に実施。
- 試験科目 ・領域：人間と社会（人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、社会の理解）
（筆記試験） ・領域：介護（介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程）
・領域：こころとからだのしくみ（発達と老化の理解、認知症の理解、障害の理解、こころとからだのしくみ）
・領域：医療的ケア（医療的ケア）
・総合問題
- 第36回試験結果（令和5年度実施） 受験者数 74,595人、合格者数 61,747人（合格率82.8%）

4 資格者の登録状況

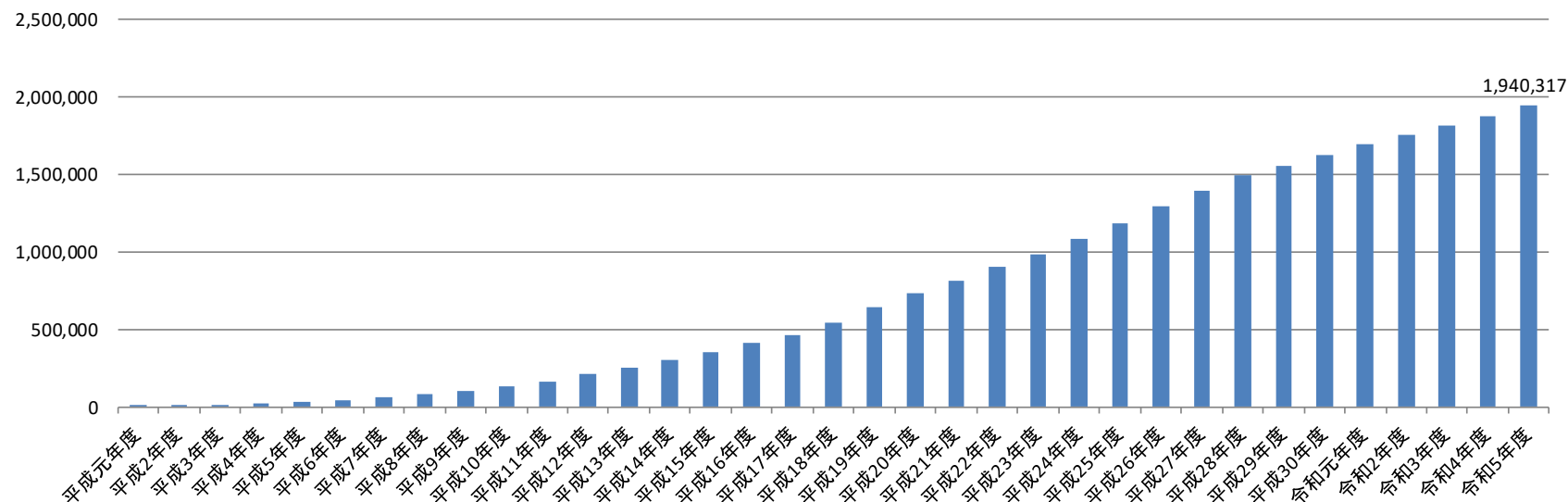
1,941,748人（令和6年3月末現在）

5 介護福祉士養成施設等の状況

- 学校、養成施設数（令和5年4月1日時点）
介護福祉士養成施設 345校358課程
福祉系高等学校 113校113課程

介護福祉士の登録者数の推移

介護福祉士登録者数は、令和5年9月末時点で、194万317人となっている。



介護福祉士

(単位: 人)

S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
0	2,631	7,323	14,302	23,472	34,547	47,467	62,503	80,799	103,246	131,636	167,322	210,732	255,953	300,627

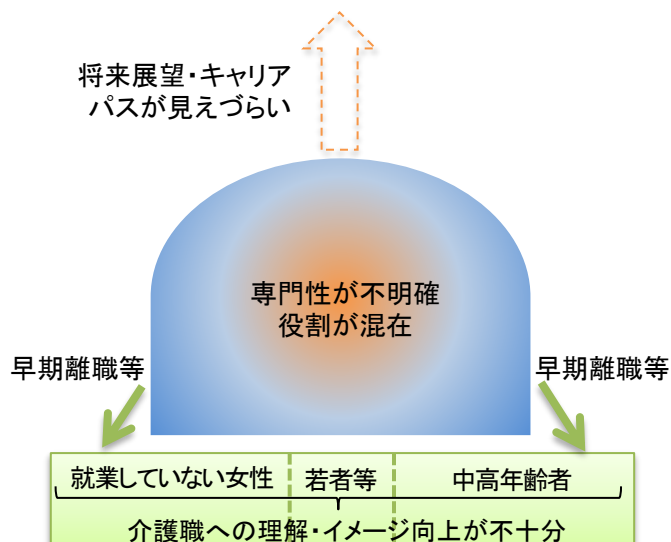
H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
351,267	409,369	467,701	547,711	639,354	729,101	811,440	898,429	984,466	1,085,994	1,183,979	1,293,486	1,398,315	1,494,460	1,557,352

H30	R1	R2	R3	R4	R5
1,623,451	1,693,165	1,753,418	1,813,112	1,874,074	1,940,317

※ 各年度9月末時点

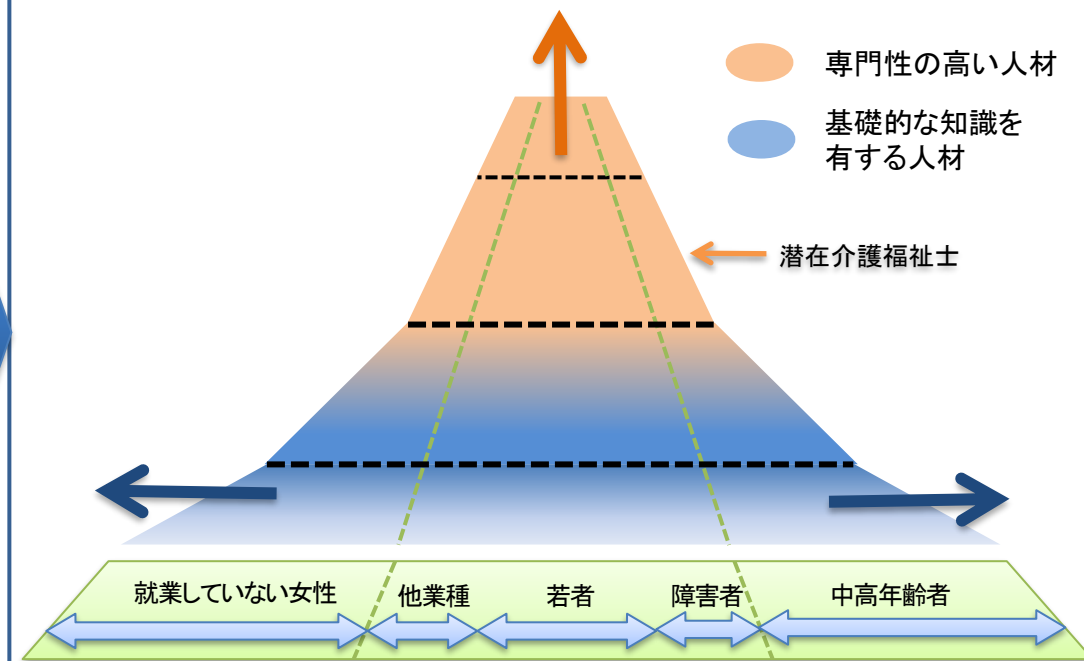
介護人材確保の目指す姿 ～「まんじゅう型」から「富士山型」へ～

現状



転換

目指すべき姿



参入促進

1. すそ野を拓げる

人材のすそ野の拡大を進め、多様な人材の参入促進を図る

労働環境・ 処遇の改善

2. 道を作る

本人の能力や役割分担に応じたキャリアパスを構築する

3. 長く歩み続ける

いったん介護の仕事についての者の定着促進を図る

資質の向上

4. 山を高くする

専門性の明確化・高度化で、継続的な質の向上を促す

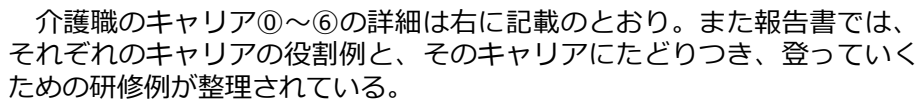
5. 標高を定める

限られた人材を有効活用するため、機能分化を進める

国・地域の基盤整備

株式会社日本能率協会

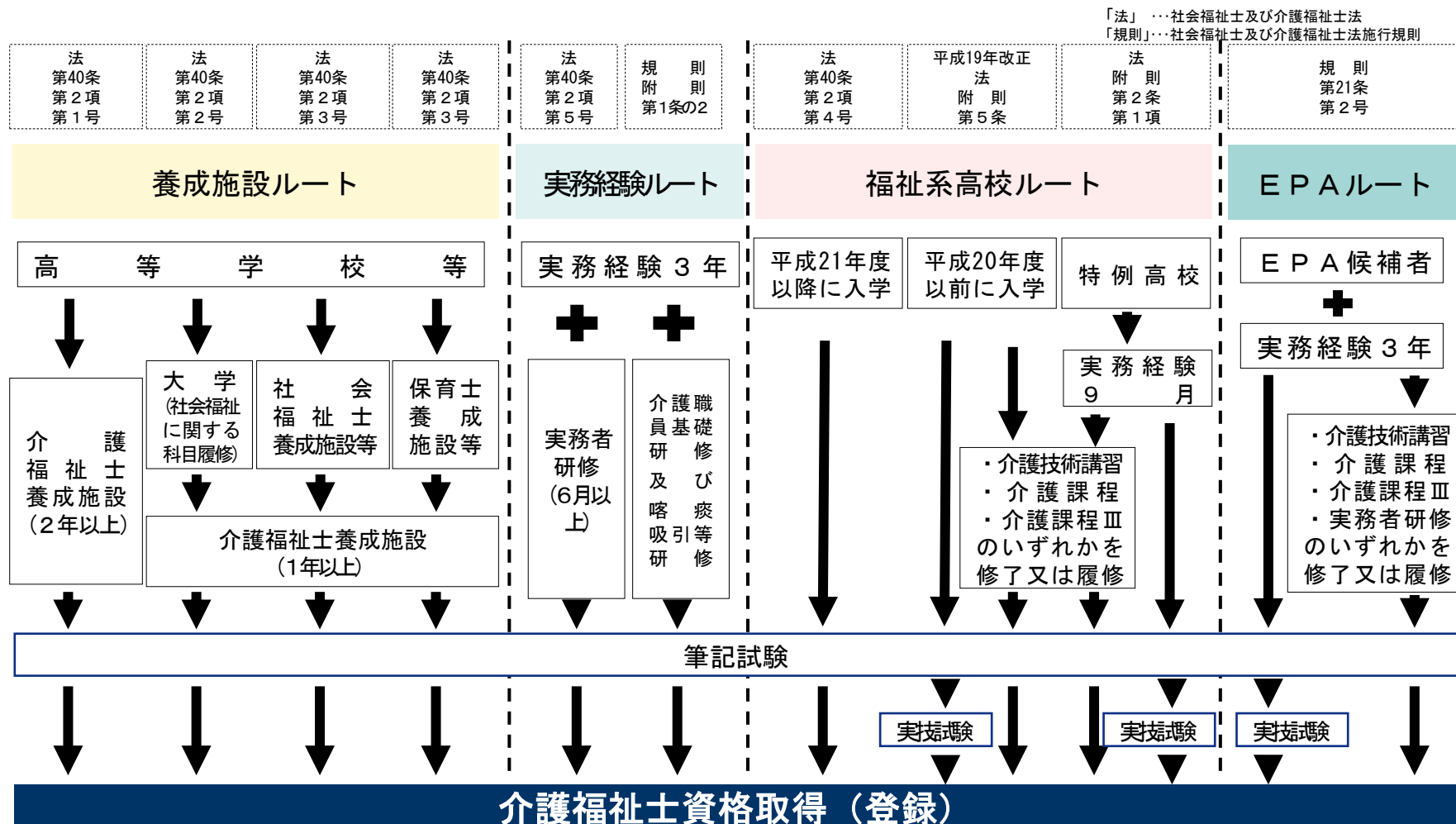
本人の能力や意欲、またライフステージに応じて、行きつ戻りつしながらキャリアを進めることが想定される中で、山脈型キャリアモデルのイメージについては、介護職にとってはそれぞれの意向やライフステージに応じたキャリアを選択できることが可視化されることにより、自身のキャリアをイメージしやすくなるとともに、早期から自身のキャリアを意識して職務にあたることに寄与すると考えられる。



出典：令和5年度老人保健健康増進等事業「介護福祉士のキャリアアップにおける職場環境等の影響に関する調査研究事業」報告書（令和6年3月：株式会社日本能率協会）より引用・一部編集

介護サービスに関する経営指標（ex.稼働率や人員配置の適正化）の改善に取り組んだり、施設・事業所全体の経営指標（ex.売上、利益、収支差額率、労働分配率）の改善に取り組む。

介護福祉士の資格取得ルート

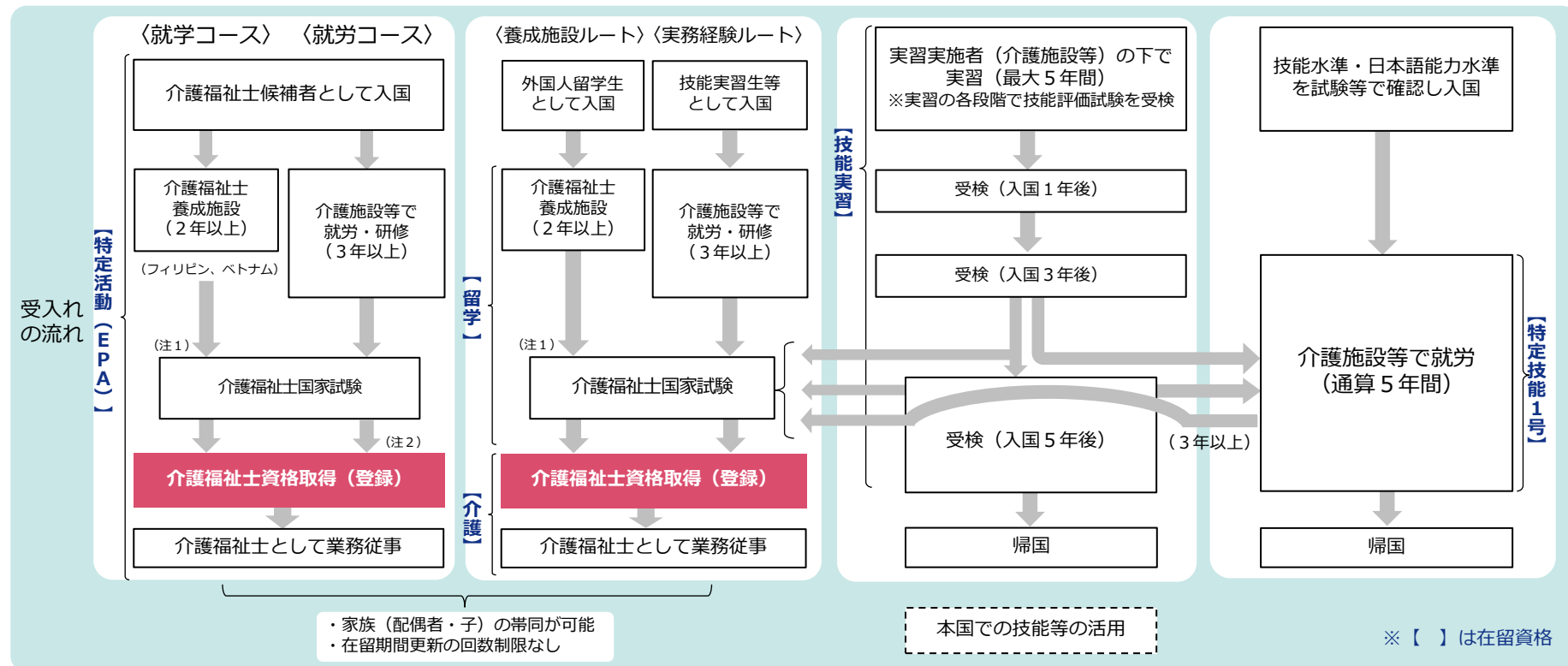


(※)平成29年度より、養成施設卒業者も国家試験合格が必要となった。

ただし、令和8年度までの卒業者には卒業後5年間の経過措置が設けられており、卒業後5年間は介護福祉士の資格を有することとし、当該5年間のうちに、国家試験に合格するか、介護現場に5年間従事するかいずれかを満たすことにより、引き続き、介護福祉士としての資格を有することができる。

外国人介護人材受入れの仕組み

	EPA（経済連携協定） （インドネシア・フィリピン・ベトナム）	在留資格「介護」 （H29. 9 / 1～）	技能実習 （H29. 11 / 1～）	特定技能 1 号 （H31. 4 / 1～）
在留者数	3,138人（うち資格取得者744人） （令和6年4月1日時点）	9,328人 （令和5年12月末時点）	14,751人 （令和5年6月末時点）	28,400人 （令和5年12月末時点・速報値）
制度趣旨	二国間の経済連携の強化	専門的・技術的分野の 外国人の受入れ	本国への技能移転（注3）	人手不足対応のための一定の専門性・ 技能を有する外国人の受入れ



（注1）平成29年度より、養成施設卒業者も国家試験合格が必要となった。ただし、令和8年度までの卒業者には卒業後5年間の経過措置が設けられている。

（注2）4年間にわたりEPA介護福祉士候補者として就労・研修に適切に従事したと認められる者については、「特定技能1号」への移行に当たり、技能試験及び日本語試験等を免除。

（注3）技能実習制度については、育成就労制度に見直す法案が第213回通常国会に提出されている。

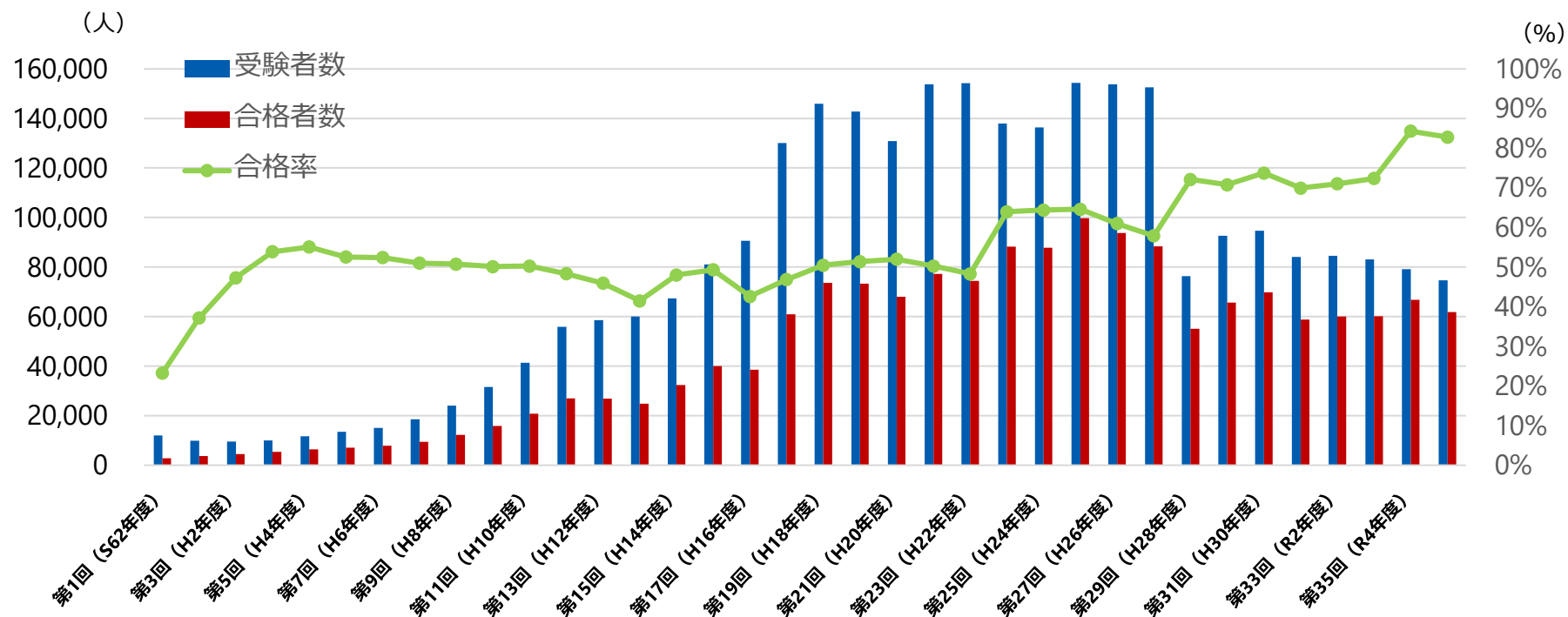
第36回介護福祉士国家試験 ルート別受験状況

区分		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	割合 (%)
総数		74,595	61,747	82.8	100.0
養成施設ルート	介護福祉士養成施設	7,392	5,283	71.5	8.6
実務経験ルート	社会福祉施設の介護職員等	45,987	38,363	83.4	62.1
	老人福祉施設の介護職員等	39,792	32,679	82.1	52.9
	障害者福祉施設の介護職員等	5,591	5,134	91.8	8.3
	保護施設、児童福祉施設の介護職員等	557	510	91.6	0.8
	その他の社会福祉施設の介護職員等	47	40	85.1	0.1
	訪問介護員等	9,527	8,481	89.0	13.7
	介護老人保健施設、介護医療院の介護職員等	4,640	3,615	77.9	5.9
	医療機関の看護補助者等	4,634	3,798	82.0	6.2
福祉系高校ルート	福祉系高等学校（専攻科を含む）	2,359	2,157	91.4	3.5
	その他	56	50	89.3	0.1

87.9%

（※）実務経験ルートには、EPAルートの受験者も含む。

介護福祉士国家試験受験者数の推移（全体）



（単位：人、％）

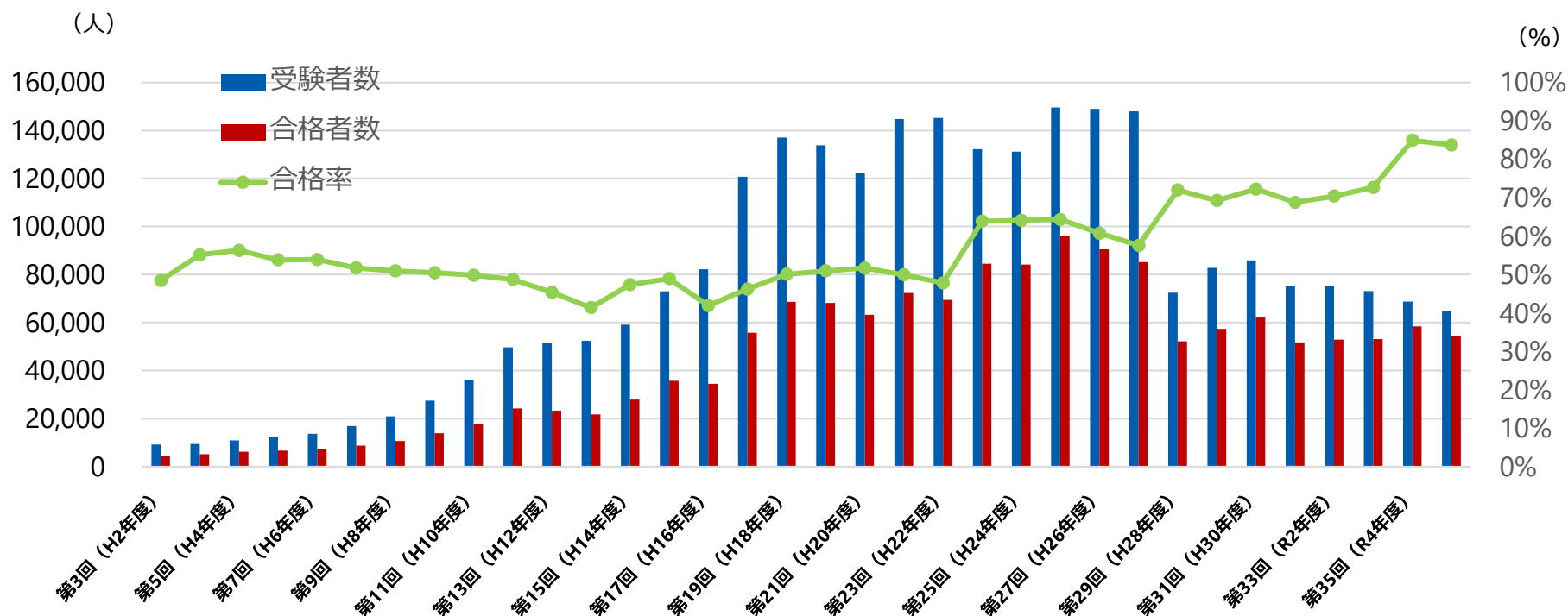
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回
受験者数	11,973	9,868	9,516	9,987	11,628	13,402	14,982	18,544	23,977	31,567	41,325	55,853	58,517	59,943	67,363	81,008	90,602	130,034
合格者数	2,782	3,664	4,498	5,379	6,402	7,041	7,845	9,450	12,163	15,819	20,758	26,973	26,862	24,845	32,319	39,938	38,576	60,910
合格率	23.2	37.1	47.3	53.9	55.1	52.5	52.4	51.0	50.7	50.1	50.2	48.3	45.9	41.4	48.0	49.3	42.6	46.8

	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回
受験者数	145,946	142,765	130,830	153,811	154,223	137,961	136,375	154,390	153,808	152,573	76,323	92,654	94,610	84,032	84,483	83,082	79,151	74,595
合格者数	73,606	73,302	67,993	77,251	74,432	88,190	87,797	99,689	93,760	88,300	55,031	65,574	69,736	58,745	59,975	60,099	66,711	61,747
合格率	50.4	51.3	52.0	50.2	48.3	63.9	64.4	64.6	61.0	57.9	72.1	70.8	73.7	69.9	71.0	72.3	84.3	82.8

第36回における在留資格「特定技能1号」受験者数：1,950人 合格者数：751人 合格率：38.5%

第36回における在留資格「技能実習」受験者数：596人 合格者数：280人 合格率：47.0%

介護福祉士国家試験受験者数等の推移（実務経験ルート）



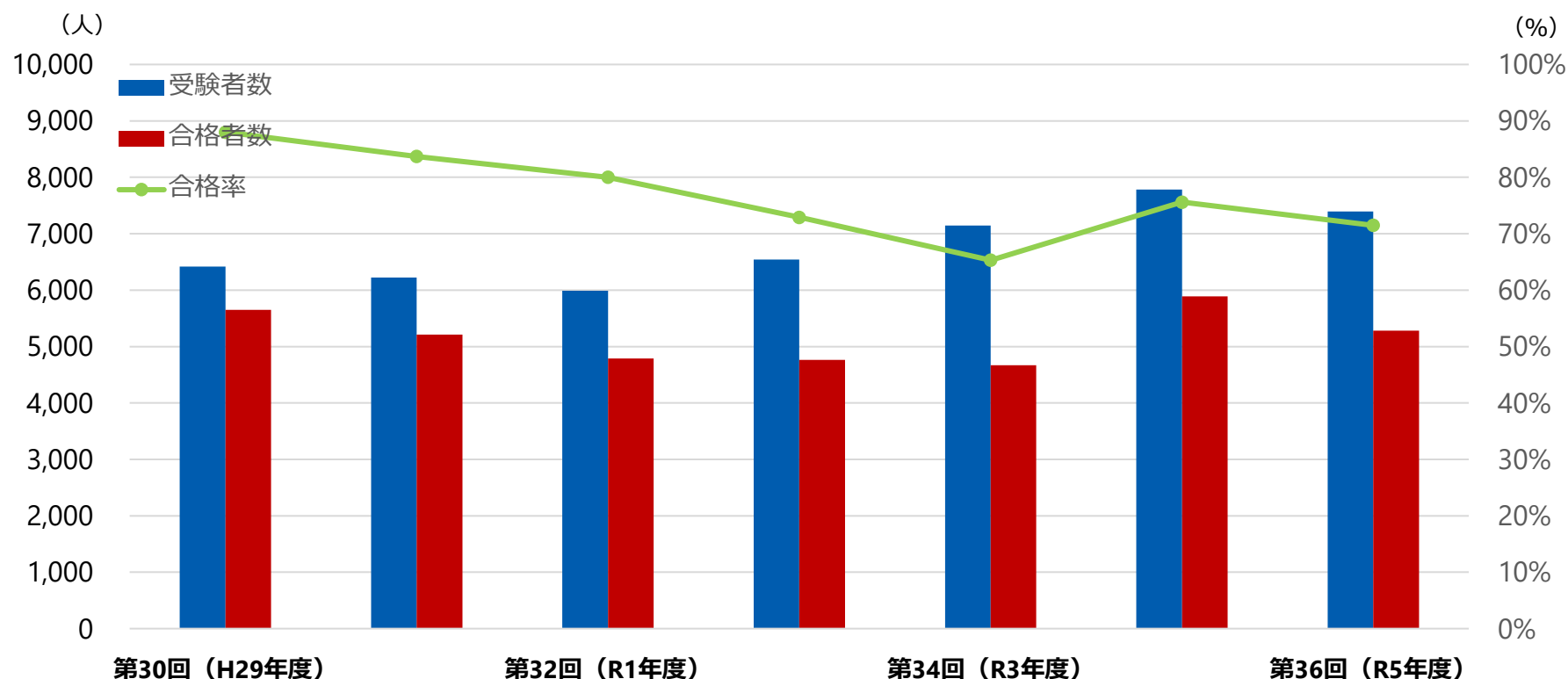
(単位: 人、%)

	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回
受験者数	9,135	9,399	10,930	12,442	13,715	16,847	20,956	27,466	36,080	49,696	51,381	52,460	59,053	73,035	82,183	120,774	137,081
合格者数	4,427	5,183	6,152	6,694	7,396	8,713	10,670	13,865	17,979	24,210	23,303	21,695	27,973	35,735	34,458	55,810	68,623
合格率	48.5	55.1	56.3	53.8	53.9	51.7	50.9	50.5	49.8	48.7	45.4	41.4	47.4	48.9	41.9	46.2	50.1

	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回
受験者数	133,888	122,343	144,743	145,194	132,280	131,239	149,618	149,068	147,990	72,424	82,748	85,916	75,128	75,105	73,122	68,769	64,844
合格者数	68,195	63,215	72,270	69,414	84,470	84,171	96,289	90,526	85,224	52,149	57,315	62,076	51,683	52,897	53,142	58,416	54,307
合格率	50.9	51.7	49.9	47.8	63.9	64.1	64.4	60.7	57.6	72.0	69.3	72.3	68.8	70.4	72.7	84.9	83.8

※ 第1回及び第2回の受験資格別集計データは、第3回以降と構成が異なるため、掲載していない。

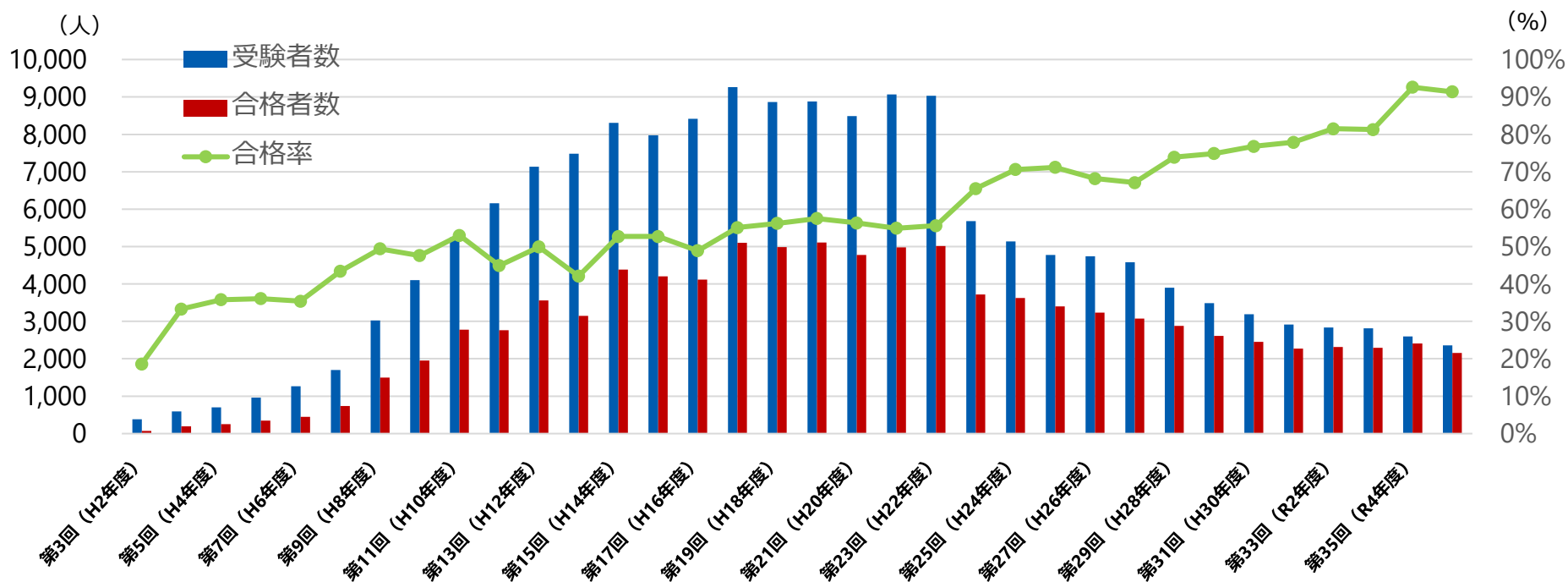
介護福祉士国家試験受験者数等の推移（養成施設ルート）



(単位: 人、%)

	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回
受験者数	6,420	6,225	5,987	6,542	7,144	7,784	7,392
合格者数	5,649	5,210	4,789	4,766	4,667	5,888	5,283
合格率	88.0	83.7	80.0	72.9	65.3	75.6	71.5

介護福祉士国家試験受験者数等の推移（福祉系高校ルート）



(単位: 人、%)

	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回
受験者数	381	588	698	960	1,267	1,697	3,021	4,101	5,245	6,157	7,136	7,483	8,310	7,973	8,419	9,260	8,865
合格者数	71	196	250	347	449	737	1,493	1,954	2,779	2,763	3,559	3,150	4,382	4,203	4,118	5,100	4,983
合格率	18.6	33.3	35.8	36.1	35.4	43.4	49.4	47.6	53	44.9	49.9	42.1	52.7	52.7	48.9	55.1	56.2

	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回
受験者数	8,877	8,487	9,068	9,029	5,681	5,136	4,772	4,740	4,583	3,899	3,486	3,189	2,917	2,836	2,816	2,598	2,359
合格者数	5,107	4,778	4,981	5,018	3,720	3,626	3,400	3,234	3,076	2,882	2,610	2,450	2,273	2,312	2,290	2,407	2,157
合格率	57.5	56.3	54.9	55.6	65.5	70.6	71.2	68.2	67.1	73.9	74.9	76.8	77.9	81.5	81.3	92.6	91.4

※ 第1回及び第2回の受験資格別集計データは、第3回以降と構成が異なるため、掲載していない。

保育士について

1. 定義

- 保育士とは、保育士の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう。（児童福祉法第18条の4）

2. 資格取得の方法等

保 育 士 ※児童福祉法第18条の4

登 録（各都道府県単位） ※児童福祉法第18条の18第1項 （登録者数 1,842,494人：R5.4.1現在）

指定保育士養成施設

※児童福祉法第18条の6第1項

（1,924,130人：R 3 年度末累計）
令和 3 年度資格取得者 35,575人

- ・ 大学 285か所（283か所）
- ・ 短期大学 223か所（227か所）
- ・ 専修学校 150か所（156か所）
- ・ その他施設 10か所（ 9か所）

合 計 668か所（675か所）
【R4.4.1現在（ ）内は前年】

保育士試験

※児童福祉法第18条の6第2項

各都道府県、指定試験機関委託 ※児童福祉法第18条の9
（557,243人：R 4 年度末時点合格者数累計）

受験申請者数 79,378人
全科目合格者数 23,758人 （4 年度実績）
うち全部免除者数 2,220人
※地域限定保育士試験を含む

保 育 士 試 験 受 験 資 格

大学等
（短大含）
2年以上在学
（62単位以上取得者
等）

児 童 福 祉 施 設
実務経験5年以上
（高校卒業者は実務経
験2年以上）

幼稚園教諭免許状
有
（試験一部免除）

知事による
受験資格認定
実務経験（※）
5年以上
（高校卒業者は実務経験
2年以上）

※対象施設
・ へき地保育所
・ 家庭的保育
・ 認可外保育施設 等

試験実施方法の比較

介護福祉士試験		保育士試験
・マークシート形式 ・正答選択による五肢択一方式	出題形式	・マークシート形式 ・穴埋めや正誤組み合わせによる五肢択一方式
13科目	科目数	8科目
全125問 科目ごとに出題数が異なる(最小2問、最大26問)	出題数	全160問 基本的に1科目20問(2科目のみ10問)
総得点の6割に難易度補正した点数以上、かつ、試験科目群すべてにおいて得点すること。	合格基準	全科目6割以上で得点すること。
－	科目免除	1度合格した科目は合格した年度の翌々年度まで合格の効力を有す。 ※合格科目も毎回受験することも可能で、合格するたびにその有効期間が延長されていく。
1日で実施 午前 10:00～11:40 (外国人受験者等配慮希望者最大10:00～12:30) 午後 13:35～15:35 (外国人受験者等配慮希望者最大13:35～16:35)	試験日程	2日で実施 各科目 60分(一部30分)
受験者全員、午前と午後の試験を受験	受験方法	受験者が選択した受験科目のみを受験

試験時間割および科目別出題数の比較

介護福祉士試験

保育士試験

	試験時間	試験科目	出題数
午前の試験	10:00～11:40 (配慮者最大 10:00～12:30)	人間の尊厳と自立	2
		人間関係のコミュニケーション	4
		社会の理解	12
		こころとからだのしくみ	12
		発達と老化の理解	8
		認知症の理解	10
		障害の理解	10
		医療的ケア	5
午後の試験	13:35～15:35 (配慮者最大 13:35～16:35)	介護の基本	10
		コミュニケーション技術	6
		生活支援技術	26
		介護過程	8
		総合問題	12

	試験時間	試験科目	出題数
1日目	11:00～12:00	保育の心理学	20
	13:00～14:00	保育原理	20
	14:30～15:30	子ども家庭福祉	20
	16:00～17:00	社会福祉	20
	試験時間	試験科目	出題数
2日目	10:00～10:30	教育原理	10
	11:00～11:30	社会的養護	10
	12:00～13:00	子どもの保健	20
	14:00～15:00	子どもの食と栄養	20
	15:30～16:30	保育実習理論	20

介護福祉士国家試験の受験しやすい仕組み（パート合格）の検討について

基本的な考え方

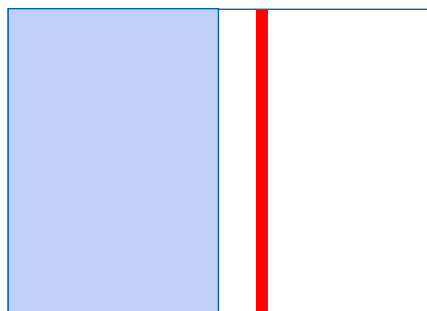
- 介護福祉士国家試験が介護福祉士としての必要な知識及び技能を担保するものであることを踏まえ、その質を低下させることなく導入できるより受験しやすい仕組みとして、いくつかの科目をパートとして合否判定する**パート合格の導入**を検討する。
- 仮に、パート合格を導入すると、初年度に不合格パートがあった者は、次年度は不合格パートのみの学習に注力でき、一人ひとりの状況に応じた学習を後押しすることが可能となる。

見直しのイメージ

現 行

- ・ 全科目の総得点が合格基準点（6割が目安）を超えれば合格

0点 合格基準点 100点



不合格

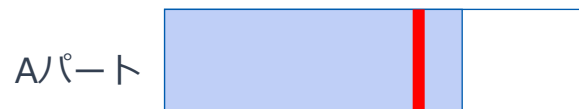
(次年度も全科目
受験が必要)



見直し後

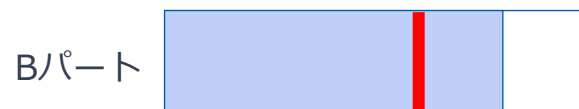
- ・ 分割したパートごとに合格基準点を超えれば合格
- ・ 次年度は合格したパートの受験は免除

0点 合格基準点 100点



合格

(次年度は免除)



合格

(次年度は免除)



不合格